

至急回覧

2020年4月30日

関係各位 殿

情報基盤センター長

学術系ネットワークを利用したリアルタイムビデオ会議実施の注意点

現在、新型コロナウイルスの影響に伴い、学内の委員会、会議等のオンライン開催の検討が行われているとの情報が寄せられております。とても便利な仕組みである一方、学術系ネットワークへの大きな負荷が想定されています。現在、すでに学生の授業をオンラインで始めておりますため、ビデオ会議システムを用いたリアルタイムの会議の開催については、以下の点をご留意頂きますようお願い申し上げます。

1. 学術系ネットワークの混み具合と「飽和状態」について

ネットワーク環境は、利用状況によって混み具合が変化し、流れるデータの限界（上限）があります。本学の学術ネットワークでも、毎年利用量が増加し、平日には上限に達することもあります。その飽和状態の際には「ネットが遅い！重たい！」という影響が出ています。これを改善するため、今年度、インターネット接続速度の高速化を進めていますが、当面はこの状態が続きます。また、現在、学生の授業もオンラインで行われており、今後の多くのビデオ会議の実施による負荷上昇が懸念材料の一つとなっています。

2. リアルタイムのビデオ会議システムを利用した会議等実施の注意点

リアルタイムの映像を視聴するタイプのビデオ会議は、利用中、ネットワークに多量のデータを流します。例えば、20名の会議参加者が「学内から」その会議へ参加すると、20名分のデータ量となります。また、複数の会議が同じ時間帯の場合（例えば17時頃からなど）、多くの参加者が「学内から」接続すると、その合計人数分のデータが学術ネットワークを使用します。これにより、すでに飽和状態に達することもある学術系ネットワークが、さらに過密状態となり、現在行われているオンライン授業や、他の業務にも影響を及ぼすことが十分考えられます。ビデオ会議自体もうまく機能しない可能性があります。

このようなネットワークの過密状態は、種々業務への影響も大きいことから、ビデオ会議を利用される場合、以下の点をご理解頂き、ご対応くださいますようお願いいたします。

とくに「学内から」の参加者が、10-20名程度、あるいはそれ以上の会議の場合、ネットワークへの負担が大変大きくなりますので、ご注意ください。なお、今後、ネットワークの状況次第で、ビデオ会議システムの利用を限定もしくは控えて頂くこともありますことをご承知おきください。

* ビデオ会議利用時の「学術ネットワーク」への負荷軽減策：

- ・「学内から」のビデオ会議参加者を少なくする。（学外からの場合は負荷が分散します）
- ・参加者のビデオカメラはできるだけOFFにして、各個人の様子を映すことは控える。
- ・授業時間帯や、他の部門と同じ時間帯の会議開催をできるだけ少なくする。
- ・資料等は、事前に配布しておくなど、会議時間帯のネットワーク負荷を少なくする。

ご不明な点につきましては、情報基盤センターまでお知らせください。

連絡先： 情報基盤センター 電話： 内線 2242 メール： cict@dokkyomed.ac.jp